

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農産園芸課長 森上 浩平	電話番号	0852-22-5123
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	米共同乾燥調製施設整備事業		
目的	(1) 対象	農協協同組合等	
	(2) 意図	JA地区本部エリアを超えた米共同乾燥調製施設の再編整備による広域的利用の促進	
事業概要	JA所有の米共同乾燥調製施設について、JA統合を契機に、JA地区本部エリアを超えた広域的な利用を図ることによりコスト削減、施設の有効利用や農業者の利便性向上に繋げるため、国庫補助事業を活用し、高度化・再編整備を推進する。国庫補助事業活用にあたって、サテライト方式等により広域的な施設利用を推進する場合、国庫補助事業の対象とならないサブ施設の荷受・輸送体制整備（計量設備・倉庫等）に対して支援する。（事業実施期間 H26～H28年度）		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	再編利用計画対象米共同乾燥調製施設数	目標値	12.0				施設
	式・定義	再編利用計画に位置付け再編した米共同乾燥調製施設（カンントリーエレベーター・ライスセンター）数	取組目標値					
			実績値	7.0				
			達成率	—	—	—	—	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	—	—	—	—	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	0	40,000
うち一般財源 (千円)	0	40,000

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

これまで、出雲地域における米共同乾燥調製施設の再編利用計画（5施設）が策定され、国庫補助事業「強い農業づくり交付金」により黒目カンントリーエレベーター（メイン施設）（JAしまね斐川地区本部管内）の改修を実施し、併せて、本事業により、西部カンントリーエレベーター（JAしまね出雲地区本部管内）隣接地に集出荷貯蔵施設（サブ施設サテライト利用）を整備した。
また、飯南町における米共同乾燥調製施設の再編利用計画（2施設）についても、平成26年度の国庫補助事業「強い農業づくり交付金」により飯南カンントリーエレベーター（JAしまね雲南地区本部）を整備した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

【出雲・斐川地区】
①出雲・斐川地区内で生産された「つや姫」については、黒目CEで一括して受入・乾燥調製することが可能となった。
②生産拡大している「飼料用米」を出雲地区本部管内の倉庫に保管可能となった。
これにより、「つや姫」、「飼料用米」の広域連携体制・増産体制が確立された。

【飯南地区】
JA地区本部エリアを超えた広域利用へはつながらなかったが、①品質の均一化、適正管理、劣化防止、②特別栽培米の選別、区分管理等が可能となり、品質の安定・需要用途に即した有利販売が可能となった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」
県内のカンントリーエレベーター空白地域において、米共同乾燥調製施設の広域的利用に向けた検討が必要。

②困っている状況が発生している「原因」
・島根おおち、石見銀山地区本部では県内のモデル地区として先行して1.9mm選別網目を導入しているが、主食用米の保管体制に余裕がなくなりつつある。
・石見銀山地区本部では生産拡大する「飼料用米」の受入保管体制が限界に達している。

③原因を解消するための「課題」
・中長期的な生産計画を踏まえ、JAエリアを超えた広域的施設利用の検討が必要。
・検討結果に基づいた再編利用計画の策定が必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

島根おおち地区本部、石見銀山地区本部においては、主食用米保管体制、飼料用米受入保管体制がひっ迫しており、米共同乾燥調製施設の広域的整備・利用に向けて継続して支援する。

9. 追加評価（任意記載）

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。